

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立小平西高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、総務保健部主任 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学教授)、学識経験者（校長協会事務局長）同窓会長、PTA会長、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣元自治会長2名 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～4回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月20日（金）内部委員7名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月21日（金）から12月5日まで（書面開催）資料を送付
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年3月19日（金）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、令和7年度各分掌の取組についての報告
協議委員からの各分掌の取組についての意見、学校評価アンケートの結果概要について
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月20日（金）内部委員3名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：788人 回収：448人 回収率：56.9%
 - ・12月 保護者全員 対象：788人 回収：267人 回収率：33.9%
 - ・12月 地域・住民 対象：120人 回収：38人 回収率：31.7%
 - ・12月 教職員 対象：50人 回収：12人 回収率：24.0%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、働き方改革など

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

本校の教育活動については、生徒・保護者・地域・教員のいずれからも、生活指導や規範意識の定着、学校行事や部活動の充実などにおいて概ね高い評価が得られており、落ち着いた学校生活が送られている点が本校の大きな強みであるといえる。一方で、学習支援の取組やスクールポリシーについては、取組自体は行われているものの、その内容や意義が十分に伝わっていないとの声も見られた。今後は、教育活動の成果や学校の方針をより分かりやすく発信するとともに、主任層を中心とした組織的な取組を進め、学校の特色や強みを一層明確にしていくことが求められる。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

本校の学校評価結果からは、生活指導や規範意識の定着、学校行事や部活動の充実など、日常の教育活動が安定的に機能していることが確認でき、生徒・保護者・地域から一定の信頼を得ていることがうかがえる。校長のリーダーシップのもと、落ち着いた学校運営がなされている点は本校の大きな成果である。一方で、学習支援やスクールポリシー等については、取組自体は実施されているものの、その目的や成果が十分に共有されていない状況が見られ、評価が中間的にとどまる傾向がある。今後は、教育活動の意図や成果を分かりやすく「見える化」し、主任層を中心とした組織的な発信を強化することで、学校の特色や方針への理解を一層深めていくことが求められる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校の教育方針や取組について説明し、意見交換を行うことで、委員から本校の教育活動への理解が深まり、地域・保護者等との信頼関係を一層強化することができた。
- ・第三者の視点から、学校の強みや課題について意見や助言を得ることができ、今後の学校運営や教育活動の改善に向けた具体的な示唆を得る機会となった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校として多様な取組を行っているものの、その目的や成果が保護者・地域に十分伝わっていないとの指摘があり、情報発信の在り方に改善の余地があることが明らかとなった。
- ・落ち着いた学校運営や行事・生活指導への評価は高い一方で、本校ならではの特色が分かりにくいとの意見もあり、学校の魅力をより明確に打ち出す必要性が示された。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校の教育方針や取組について、学校運営連絡協議会や各種行事等を通じて、保護者・地域へ分かりやすく発信する。

(2) 学習指導

- ・校内研修を通して授業改善を進め、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。

(3) 特別活動

- ・学校行事や部活動の充実を図り、生徒の主体性や協働性を育成する。

(4) 生活指導

- ・落ち着いた学校生活を維持し、生徒が安心して過ごせる環境づくりを推進する。

(5) 進路指導

- ・組織的な進路指導体制を整え、生徒一人一人の希望に応じた支援を充実させる。

(6) 健康・安全

- ・関係機関との連携を図り、安心・安全な教育環境の維持に努める。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議、企画調整会議への参加はなし

【成果】文化祭、合唱祭へ参加いただき交流機会を設け、連携強化を深めた。

8 その他

- ・保護者、地域のアンケート回収率を高めるため、質問内容や配布方法等を含め検討の必要がある。
- ・生活指導や行事への評価は高い一方で、「本校ならではの特色」が十分に伝わっていないため、50周年行事等と連動させ、学校の歩みと成果をさらに発信していく。